

小貝川の水害の歴史

小貝川の概要



小貝川の源流: 小貝ヶ池(栃木県那須

烏山市曲火田)

全長: 約11.8km (栃木県と茨城県をまたぐ)

流域面積: 1043km²

関東平野を北から南に流れる一級

河川。昔は蚕養川と表記され、頻繁に洪水

を起こす「暴れ川」として知られています。

結果

小貝川周辺と利根川との合流地点では約20箇所がこれまでに決壊し、特に高須、大畠、豊田での被害が大きかった。決壊の箇所を観察すると川幅が狭いところや急カーブが多く見られた。特に急カーブの場所には河岸に川のゴミがたまん溜まっている様子が見られた。昔の新聞記事では決壊情報が住民に伝わるのが遅かったと記載があった。地元の人へのインタビューでは決壊に備えて土や竹竿などを地区に備えていた。決壊に備えた行政の治水整備として木門堰堤、排水機場、土手の改良を行っていた。

考察

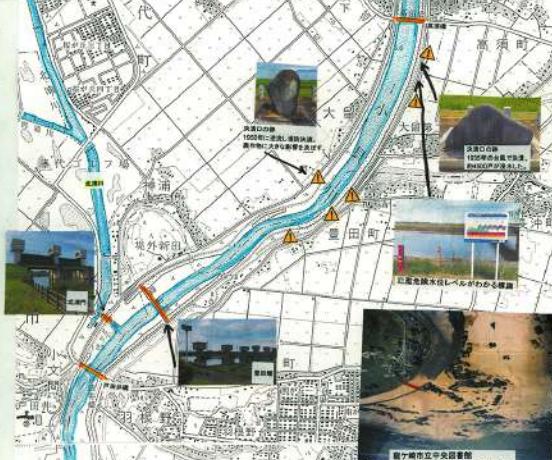
急カーブにゴミが溜まっていたことから、急カーブでは水の流れが悪くなり、圧がかかるやすいことで決壊やすいのではないかと考えた。また川幅が狭いことが重なるさらに決壊やすいのではないかと考えた。これまでの決壊では住民への情報提供が遅いため自分で情報を得るために小貝川周辺にオバカラを設置したり、氾濫危険水域のレールが目で分かる標識を設置したり過去の教訓が活かされていると感じた。

行政が治水整備をおこなうことはとても重要であるが、地元の人々が協力し、災害時の事前準備をしたり、地域の人どうしがつながりを持ておくことが水害対策を上手くやる必要だと思った。



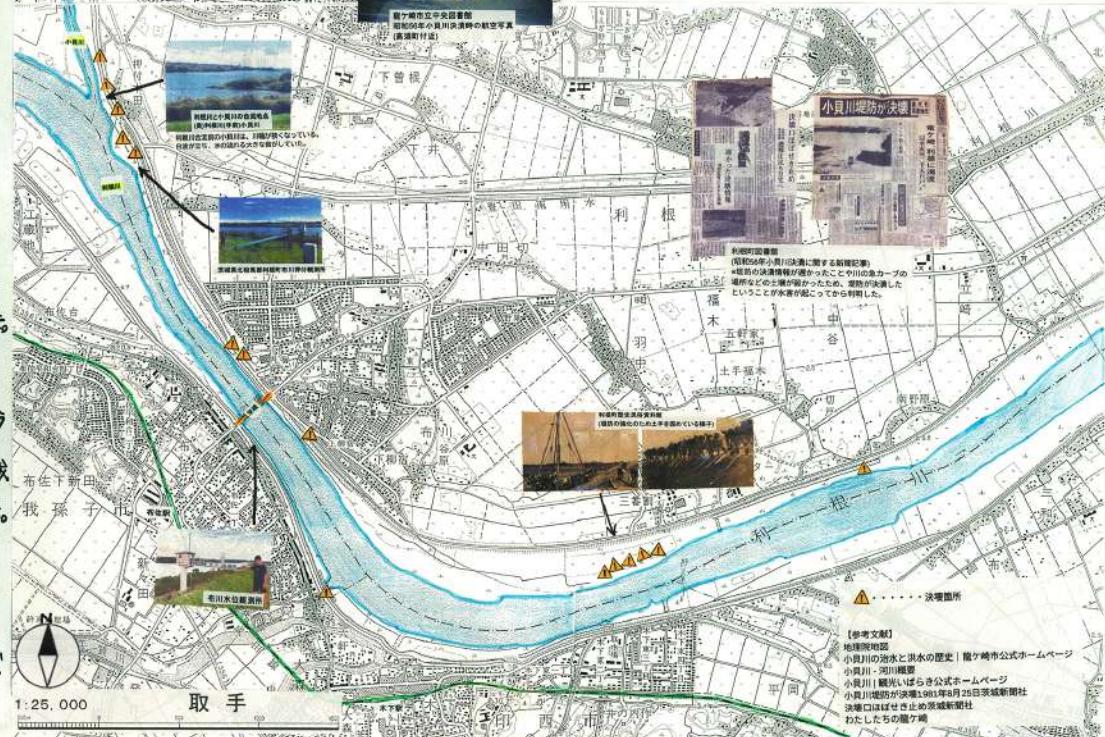
動機

若溪学園中学校
2年 高谷 横平



目的

昔どんなところで川が氾濫し決壊したのか。またどういったところが決壊やすいのか。現地を訪ねたり、資料館や図書館などで当時の状況が記載してある資料を見たりして調べる。



[参考文献]
地理院地図
小貝川の沿岸に決水の歴史 | 龍ヶ崎市公式ホームページ
小貝川の流域地図
小貝川の流域地図
小貝川 | 龍ヶ崎市公式ホームページ
小貝川が決壊した1981年8月25日茨城新聞社
決壊口はせき止め茨城新聞社
わたしたちの龍ヶ崎